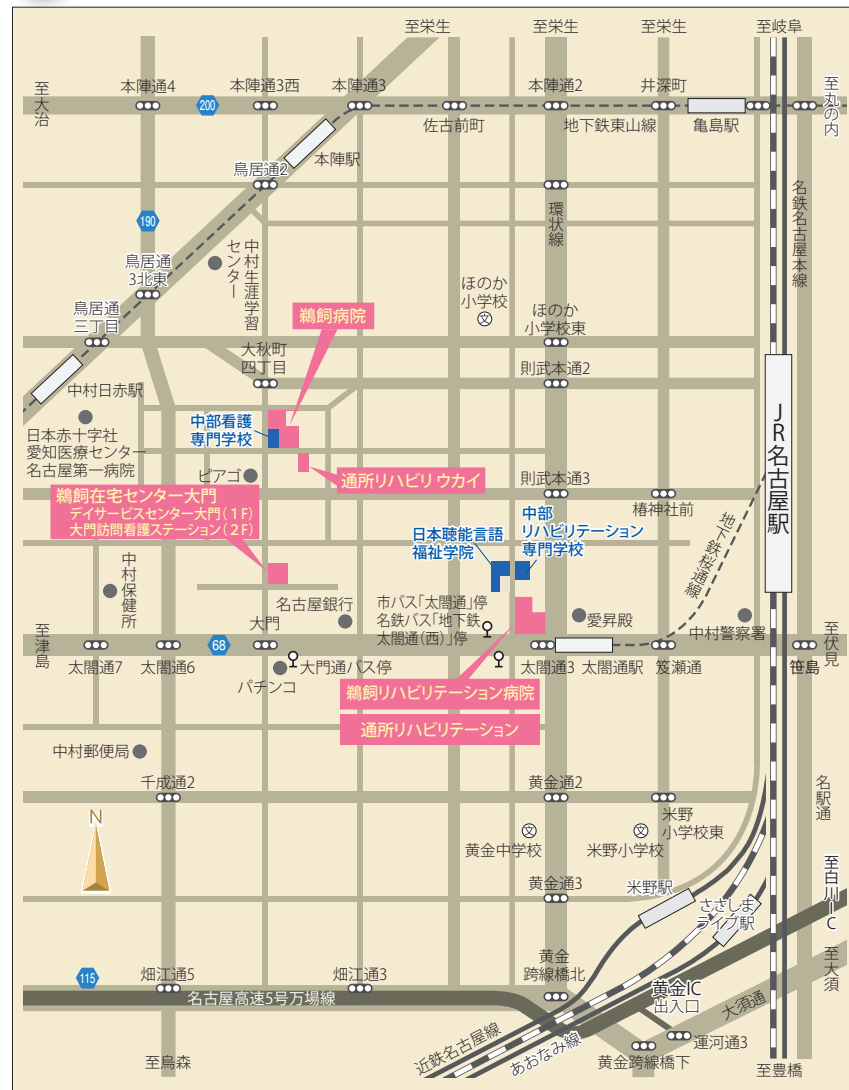




ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄／桜通線「太閤通」1番出口より……………徒歩約1分
- 市バス「地下鉄太閤通」・名鉄バス「地下鉄太閤通(西)」下車……………徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約10分



医療法人 珪山会 鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える 珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

**デイサービスセンター大門
(鵜飼在宅センター大門1階)**
TEL 052-461-3204
FAX 052-461-3214
名古屋市中村区賑町26

**大門訪問看護ステーション
(鵜飼在宅センター大門2階)**
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区賑町26

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌



発行人／鵜飼泰光
発行／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行／令和5年4月1日



医療法人 珪山会 鵜飼リハビリテーション病院

患者さんの思いを傾聴し、 思いを軸にした支援を行う。

鵜飼リハビリテーション病院は2021年、5回目となる病院機能評価の更新審査を受け、
2022年2月4日づけで認定を取得した。
『ReHappy!』では今号からシリーズで、
病院機能評価の審査でとくに高評価を得た項目について掘り下げ、
スタッフたちがどのような思いでリハビリテーションの
質の向上に取り組んでいるかを紹介していく。
1回目は、「患者支援体制の整備と患者との対話促進」についてである。

〈患者さんの思い支援プロジェクト〉とは？

病院機能評価で〈患者支援と対話促進〉について
高く評価されたことについて、まずは率直なご感想
をお聞かせください。

藤井 とてもうれしかったですね。実は、私たちは2021年3月に〈患者さんの思い支援プロジェクト〉を立ち上げて、病院全体で患者さんの思いに寄り添う支援に力を注いできました。その取り組みが評価されたところも大きいと感じました。

粕谷 今回、病院機能評価の審査を受けたのが2021年の11月ですから、ちょうど良いタイミングだったといえるかもしれません。このプロジェクトはもともと、〈患者

3階病棟
リハ主任
藤井博昭
(理学療法士)



リハビリテーションの
時間以外でも
患者さんに会いにいくよう
スタッフみんな
努めています。

参加型医療(患者さんに主体性を持って医療に参加していただくこと)をどこまで提供できているだろうか、という問題意識が起点となり、患者さんの思いをもっとしっか

病院機能評価で、S評価(秀でている)を獲得。 「患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している」

病院機能評価は、病院の運営管理と医療について
公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、より良い病院づくりを支援する仕組みである。鵜飼リハビリテーション病院は2002年より認定を受けており、5回目の更新が認定された(認定日:2022年2月4日)。
病院機能評価



は4つの評価対象領域から構成される各項目について評価されるが、当院は5つのS評価(秀でている)を取得。その一つ、「患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している」という項目では、「患者支援の取り組みが秀でている」と評価。具体的には「相談窓口は社会福祉士5名、看護師1名による専従体制で、身体的、心理的、経済的アセスメントを丁寧に行っていること。相談者からの傾聴を重視することで心理的安心感を与えていること」などがポイントとして挙げられた。さらに、セラピスト、社会福祉士が中心となって力を注いでいる「就労支援体制」も高い評価を得た。

り聞いて支援に繋げよう、という目的で始まりました。たとえば、「復職したい」という希望があったとして、それは、どういう思いから来ているのか、元の仕事に戻りたいのか、生活費を得るために働きたいのか、といったところまで掘り下げて把握しないと、本当の意味で良い支援はできません。医師やセラピスト、看護師、医療ソーシャルワーカーなど多職種のメンバーが集まって、どうやって患者さんの深い思いを聞き出していか、検討を始めました。
藤井 そうでしたね。それまでは個々の職員が患者さんの思いを把握していましたが、カンファレンスでなかなか共有することができなかった。そこで、まずはカンファレンスの最初に、患者さんの思いを確認する時間を必ず設けるようにして、患者さんに関わるスタッフ全員が共有できる環境を整えました。



粕谷 そうそう。さらに効果的だったのは、患者さんとご家族の思いを集約する場所を、電子カルテの中に作ったところだと思います。リハビリテーションのなかで患者さんが漏らした本音とか、ベッドサイドで聞いた不安な気持ち、ご家族から得た情報などを、患者さんに関わるスタッフが誰でも書き込むようにしました。

三宅 私も患者さんやご家族の希望や悩みを聞いたら、どんな些細なことでも必ず書き込むようにしています。入院中に患者さんやご家族の思いも変化していきますから、〈今の気持ち〉をタイムリーに把握する上でもとても役立っていると感じています。

職員の〈聞き出す力〉を高めていく。

患者さんの思いを聞く上で、難しかったのはどんなところですか。

藤井 〈患者さんの思い支援プロジェクト〉を始めたときに、職員アンケートを行ったんです。その回答で、「どんなふうに思いを聞いたら良いか戸惑うことがある」「どういう思いを聞いたら良いかわからない」といった意見が寄せられました。そこで、職種を問わず、まずは〈患者さ

退院した患者さんが
元気に仕事している
と聞くと、
チームのモチベーションも
上がります。



5階病棟
リハ主任
粕谷昌範
(理学療法士)

んの思いを聞き出す方法〉を学んでいく必要があるなと考えました。

粕谷 とくに当院には、高次脳機能障害や言語障害を持つ方が多く入院していらっしゃいます。話を理解しにくかったり、話すことが困難な患者さんに、どうやって思いを聞いていくのかが、いちばんむずかしい課題でしたね。

藤井 そのために始めたのが〈聞き方の勉強会〉で、今も継続してやっています。これは、ヒアリング方法に精通した言語聴覚士が講師となって、障害の種類や程度、場面に応じて、「こういうふうに聞くと良いですよ」というケーススタディを他の職種に指導するもので、まだ全員がマスターしているとは言えませんが、みんなで「聞く力」のレベルアップをめざしています。

三宅 〈聞き方の勉強会〉は、本当に良い試みだと思います。話が通じにくいと思っていた患者さんとの話し方のヒントをいろいろ学べるので、面談の質も上がっているように感じています。

藤井 その他、患者さんとの対話する機会も増やしていますよね。セラピストは普通、リハビリテーションの時間に患者さんとお話するわけですが、それ以外でもできるだけベッドサイドを訪ねてお話を聞くように心がけています。

粕谷 ここ数年、コロナ禍でずっと面会制限されてきましたから、ご家族が面会でできない分、私たち職員がお話しすることはとても大切なことだと思います。



入院から退院まで関わる大切さ。

 病院機能評価では、「社会福祉士（医療ソーシャルワーカー：以下MSW）と看護師による専従の相談体制」も高く評価されたポイントでした。

三宅 「身体的、心理的、経済的アセスメントを丁寧に行っている」「相談者からの傾聴を重視することで心理的安心感を与えている」というコメントもいただき、うれしく思いました。それに加え、当院では、MSWが一人の患者さんの担当になり、入院から退院まで関わる体制を作っていて、それも、患者さんの大きな安心に繋がっていると思います。

粕谷 担当者が決まっていると患者さんも相談しやすいですね。

三宅 ええ。患者さんからすると、MSWって何の専門職かよくわからないらしく、私たちが「何でも相談してください」と伝えても、何をどこまで話していいか戸惑われ



ようなんです。その点、入院時から同じ職員が寄り添っていけば、心を開いてもらいやすくなります。たとえば、私たちは医師の症状説明の場にも同席して、患者さんがどんなふうに思われたか、どう理解されたかを確認して、退院への準備に活かすよう心がけています。

藤井 MSWが要所要所でしっかり患者さんに寄り添ってくれるので、僕たちも安心して退院後の道筋を見通せることがありますね。また、コロナ禍でここ数年、なかなかご家族と直接面談できなかったので、MSWの役割をより一層強く感じます。

三宅 そうですね。面会の機会が減っているので、私たちがご家族の気持ちをしっかり拾わなくては、と思っています。また、直接会って話ができないので、電話やウェブ面会で話すときは、より丁寧に言葉を選んで、話の内容を正確に伝えるように心がけています。



ご家族の思いを
丁寧に聞いて
他の専門職に発信するように
心がけています。

医療連携部
三宅麻依子
(医療ソーシャルワーカー)

法人内外の連携を深めていきたい。

 最後に、今後の目標や課題についてお聞かせください。

三宅 MSWとしては今後も今の体制を維持し、入院時から退院までしっかり患者さんをご家族に関わっていきたいと思います。また、私たちは認知症や生活保護、家庭内暴力など福祉的な課題を持つ方の支援にも力を入れていますが、そうした課題を地域の方々とも共有し、地域全体の取り組みへ広げていくことも重要だと考えています。地域連携というところでは、すでに地域の就労支援事業所と緊密な連携体制を結んでいます。それについても今後、さらに発展させていきたいですね。

粕谷 今回の病院機能評価でも、就労支援事業所との連携について高く評価していただきました。定期的に、事業所さんから復職の経過を報告していただく機会も設けていますが、患者さんの元気な知らせを聞くことは、チームみんなのやりがいにもなっています。私も事業所の方とはよく話すようにしているのですが、これからも患者さんの障害の内容や仕事への思いをしっかり伝えていきたいと思います。

藤井 そうした地域連携に加え、法人内の連携強化にも一層取り組みたいですね。珪山会グループでは、鵜飼

病院での外来リハビリテーションや訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、鵜飼在宅センターなどを幅広く展開しています。そうしたトータルなケアシステムとさらに緊密に繋がることで、患者さんに安心の療養生活を提供していきたいですね。いずれにしても、院内だけでなく、法人全体、地域全体へと視線を広げ、地域の方たちと一緒に患者さんを支えていきたいと思っています。

For the Best Support

Topic 1

就労支援のケーススタディ「現場監督に復職」。

鵜飼リハビリテーション病院では、就労支援事業所と連携し、退院後の就労支援に力を注いでいる。そのケーススタディを紹介したい。

患者さんは、50代男性（Aさん）。脳卒中を発症する前は、工事現場の現場監督として管理業務に手腕を発揮していた。当院に入院後はリハビリテーションに取り組み、生活に必要な運動機能などはすっかり回復したが、後遺症として〈短期の記憶障害（少し前に起きた新しい情報を記憶できない）〉と、〈病識欠如（自分の障害をうまく認識できない）〉が残ってしまった。こうしたことから、退院するときに就労支援事業所に情報を繋ぎ、継続支援をスタート。同所の担当者がAさんと一緒に職場へ出向き、職場の方たちに障害について理解と協力を依頼。その後も担当者は何度も職場に同行し、仕事でトラブルが起きていないかを確認していった。Aさんは、短期記憶障害については自分でメモを取ったり、周囲のフォローを得ながら乗り越え、徐々に以前の業務を再開し、現場復帰を実現。

「就労支援事業所のきめ細かいサポートのおかげで復職できた」と喜んでいただくことができた。Aさんは今、仕事のやりがいを取り戻し、生き生きとした毎日を送っているという。



Topic 2

退院支援のケーススタディ「重度な障害でも自宅へ」。

次に紹介するのは、退院困難事例のケーススタディである。患者さんは50代の男性（Bさん）。脳卒中により、重度の四肢麻痺と意識障害が残り、入院時は全介助を要する状態だった。そのため、退院後は施設への入所が妥当だろ

うと思われたが、懸命な訓練により、食事を自分で食べられるようになるなど、介助の量が少しずつ軽減。こうした変化を、担当のMSWが適宜家族に報告し、退院後の生活について検討を重ねていった。

「家に帰りたい」「できれば家に帰ってきてほしい」という本人とご家族の思いはあったが、それでも介護への不安は大きく、ご家族は施設入所を選択していた。そこで、まずは自宅で介護できるかどうか試していくことにした。自宅にリフトを仮設し、ベッドからBさんをリフトで吊り上げて車椅子に乗せる練習や、おむつ介助などの練習を行っていったのである。しばらくして、「これなら何とか介護していける」というご家族の決断を得て、Bさんは自宅に戻ることができた。「家に帰りたい、帰ってきてほしい」という思いを実現するために、チーム一丸となって取り組んだケーススタディ。今、Bさんは妻や子どもたちに囲まれ、穏やかな日々を送っているという。



珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼 病院

地域に密着した病院として、 患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

利用者さんの状態に合わせ、 専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせ、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと 同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。



日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法での低周波やホットパック等を行います。

施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後13:30～17:00

サービス内容

- 3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション
- 健康状態の確認（メディカルチェック） など

※食事・入浴サービスはありません。
※3～4時間型は送迎があります。

デイサービスセンター大門(鵜飼在宅センター大門1階)

今の生活を末永く維持するための 効果的な予防サービスを提供します。

健康と要介護状態の中間に位置づけられるフレイル（虚弱）状態の改善をめざす専門のトレーニング施設です。

介護保険に加え、自治体が運営する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の方が対象となります。

当センターでは、サービス利用にあたり必要な介護保険や総合事業への申請の援助を行います。フレイルの改善したい症状に応じたプログラムをご提案するだけでなく、主体的な健康づくりの習慣づくりに向けた健康講座なども行います。また、PT・OTが常駐して個々の能力や疾病に合わせてアドバイスをを行います。



施設概要

健康維持・介護予防をはかりたい方を対象に1～3時間程度の 集団プログラムをご提供します。

対象：要介護・要支援認定の方、
名古屋市の総合事業対象の方
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:10
午後13:00～16:10

サービス内容

- 介護保険総合事業申請のお手伝い
- 集団トレーニングメニュー
 - ・基礎体力づくり
 - ・歩行支援
 - ・コグニサイズ
 - ・シニアヨガ
 - ・音楽療法 など

※食事・入浴サービスはありません。

大門訪問看護ステーション(鵜飼在宅センター大門2階)

短期間の利用も可能。 退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区（一部）・中川区（一部）

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。